その三

繁二郎の親、ある時、
「どごの家でも大根干しているどき、おらえだば大根もねえし、じぇんこもなくて干されね」
って言ったど。繁二郎は、
「なも心配すな。いま一駄もってきてやら」
って出で行ったど。
そしたっけ、むこうから村一番の金持の馬、大根つんでやって来たど。そこで繁二郎は、
「なんとちっちぇ馬だごど」
て、その馬どごバガにしたど。そして、
「おらのガモの方、もっと大きい」
って言ったど。馬車引きおごってしまったど。
そごで繁二郎は、
「おめどごの馬ど、おらのガモど、どっちが大きか皆さ聞いてみるべ。おらのガモ大きていわれたら、その馬の大根みな貰う」
って賭けしたど。そしてサルマタわきさよけで、ガモ出して道歩(ぐ)たど。
「おや繁二郎、大きいガモしてるごど」
という人ばかりで、馬大きいという人は、一人もいねがったど。
そこで繁二郎は、馬さつんだ大根、みな貰ったど。